

グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年3月30日～2015年4月5日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年4月6日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼「占領地域に関する法律」についてのアブハジア「共和国外相」の発言(4月4日)

・ガグリア「アブハジア共和国外相」は、グルジアの「占領地域に関する法律」について、ロシアとの対話やアブハジア・南オセチアとの関係を妨げるのみならず、グルジアにとっても障害となっているとして、グルジアはEUの助言を受け容れて同法律を簡素化すべきだと発言。

【南オセチア】

▼南オセチア「議会」が「同盟と統合に関する協定」を批准(4月3日)

・3月18日に署名されたロシアとの「同盟と統合に関する協定」について、南オセチア「議会」が批准を決定。

2. 外 政

▼ベルチャシヴィリ外相がブリュッセルを訪問(31日—4月2日)

・アバシゼ対露関係首相特別代表、バクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ザカレイシヴィリ和解・市民平等担当国務大臣らが同行。

・ル・ロイ欧州対外行動庁事務局長、ティーママンス欧州委員会副委員長、マルムストレーム欧州委員(通商担当)、レンデルス・ベルギー外相らと会談。

・ル・ロイ欧州対外行動庁事務局長ととの会談では地域的な安全保障、グルジアの紛争の平和的な解決、ロシアがアブハジアおよび南オセチアとの間で結んだ「協定」などについて議論。グルジア側はEUMMの役割を強調。グルジア側はグルジアのEUとの統合により被占領地域の住民にもたらされる新しい機会を強調した。

・「レ」ベルギー外相との会談では、DCFTAを含むEUとの連合協定への署名がベルギー・グルジア関係に新たな発展の機会をもたらすと展望が強調された。「レ」ベルギー外相はリガでの東方パートナーシップ首脳会議の目標の実現に関してグルジアに対する支援を約束。

・2日には欧州地域のグルジア大使会議が開かれ、5月のEU東方パートナーシップ首脳会議に向けた更なる努力が強調された。

▼ウクライナ検察がサーカシヴィリ前大統領の送還を拒否(4月1日)

・ウクライナ検察は「グルジアからの要請を検討した結果、ウクライナ検察は『サ』氏の送還は政治的な動機に

基づく訴追を目的としてなされたものである恐れがあると結論づけた」との声明を発表した。声明は更に、「サ」前大統領の送還は欧州人権条約に反するとも述べている。
・2014年8月にトビリシ市裁判所は複数の件に関し「サ」前大統領の審理前勾留を本人不在のまま命令した。現在、「サ」前大統領はポロシェンコ・ウクライナ大統領の顧問を務めている。

▼グルジア、トルコ、アゼルバイジャン3カ国国防相会談(4月2日)

・トビリシにて第2回目となるグルジア、トルコ、アゼルバイジャンの3カ国国防相会談が開催された。地域的な安全保障環境や国防分野における3カ国の協力の見通しなどについて議論。軍事教育の分野での協力の推進に特に焦点が置かれ、ジャネリゼ国防相は、サチヘレ山岳訓練所で3カ国の軍が参加する夏季山岳訓練コースを開催することを提案した。

・会談後に行なわれた共同記者会見で、「ジャ」国防相は、「我々の協力は地域における安定と平和の確立を目的としたものであり、いかなる第三国に対抗するものでもない」と述べた。

・「ジャ」国防相はトルコ、アゼルバイジャン両国の国防相それぞれとも個別に会談を行なった。ユルマズ・トルコ国防相との会談ではグルジアのNATO加盟の見通しが取り上げられ、「ユ」トルコ国防相はグルジアの領土一体性とNATO加盟の追求に対する揺るがぬ支持を再確認した。「ジャ」国防相はNATOの実質的パッケージの実施におけるトルコの関与の重要性を強調した。

▼7カ国の国連常駐代表がグルジアを訪問(31日—4月2日)

・ギニア、グレナダ、ジャマイカ、カーボベルデ、東ティモール、トンガ、ウガンダの国連常駐代表がグルジアを訪問。ジャラガニア外務次官らと会談。南オセチア行政境界線付近の状況を視察。

3. 内 政

▼マルグヴェラシヴィリ大統領が国会で演説(31日)

・「マ」大統領が国会で年次演説を行なった。最高裁長官、憲法裁判所長官、国立銀行総裁らは出席したが、内閣のメンバーは出席しなかった。

・内政に関し、どの分野で誰が意思決定者であるのかが明確にされねばならないとして、同様の任務を持つ機関が乱立していることが問題であり、政府の意思決定の遅延が発展の障害となっていると批判。

・最近の通貨ラリの減価に関し、グルジアに外的なシヨ

ックに対する備えや適切な経済予測が欠如していたことを露呈させたと指摘。

・EU・NATO加盟への道のりにおいて、グルジアはパートナーの欧米諸国からの更なる支援を必要としているとして、NATOの「実質的パッケージ」の迅速な実施、未だにグルジアのNATO加盟に懐疑的なNATO諸国との協力の推進が重要であると述べた。

・トルコ、アゼルバイジャンなどとの地域協力の重要性を強調。

・ロシアはグルジアの安全保障に対する深刻な問題であるとして、2008年のグルジアの領土の占領、ウクライナでの戦争、沿ドニエストルの問題は、独立した選択を行なったグルジア、ウクライナ、モルドバの人々をロシアが「罰した」ものであると述べた。また、ロシアはプロパガンダによってグルジアを欧州との統合の追求から転換させようとしており、それに対抗するため親欧米勢力のより強い結束が必要であると主張。

・民主主義の強化と人権の高いスタンダードの確立が優先的な課題であるとして、状況は前政権時代よりも改善したものの、グルジアが現代的な欧州国家になるためにはまだまだ十分とは言えないと指摘。

・小選挙区制の改正、司法の独立の強化に向けた措置、検察および内務省の迅速な改革の必要性を強調。

・翌1日、ガリバシヴィリ首相は機関の乱立に関する「マ」大統領の批判について「理解できない」として反論。

▼国防省・軍関係者らの裁判(4月1日)

・2014年10月28日に光ファイバーケーブルの調達に係る入札で410万ラリを流用した容疑で逮捕された国防省職員2名と元職員1名、グルジア軍一般幕僚2名の裁判がトビリシ市裁判所にて開始された。

・ショタゼ次席検事は、必要となればアラサニア前国防相に対する尋問も行うと発言。

▼国会委員会委員長の交代(4月2日)

・欧州統合委員会、予算・財政委員会、環境委員会の委員長はこれまで自由民主主義者党の議員が委員長を務めていたが、与党連合の議員に交代した。欧州統合委員会委員長にはヒダシェリ議員(共和党)が就任。その他2つの委員会の委員長にはグルジアの夢・民主グルジア党の議員が就いた。

▼アラサニア前国防相の発言(4月3日)

・3日、「ア」前国防相は会見を開き、「昨年10月28日にフランスからの防空システムの購入に関する予備的な取り決めとなる覚書に仏側と署名することになっていたが、前日に『ジャ』国防相(当時は安全保障・危機管理委員

委員会委員長)から電話で、署名をしないようにとの首相の指示を伝えられた。しかし、国益のために署名した」と述べた。また、覚書の内容は3月末で期限が切れてしまったとして、政府が重要な文書の実現を阻害したと非難。「ア」前国防相によれば、覚書の内容が実現した暁には、戦闘機および短・中距離の弾道ミサイルによる攻撃の防御が可能になる予定であった。

・更に、「ア」前国防相は、政府は署名を断念させようとして、「ア」前国防相のフランス訪問中に国防省・軍関係者5名を不正支出の容疑で逮捕したと述べた。

・「ア」前国防相はこの件を調査する国会特別委員会の設置を要求。与党連合は反対している。

・「ジャ」国防相は、「ア」前国防相が無責任な声明を発表したと非難。「ジャ」国防相によれば、防空システムに関する協議は現在も継続されている。

4. 経 済

▼2015年2月のGDP成長率(31日)

・国家統計局が速報値を発表。2015年2月の実質GDP成長率は前年同期比4.9%。2015年1月～2月の実質GDP成長率の平均は前年同期比2.7%。

▼2014年の人口動態(31日)

・2014年の出生数は60,635人(男31,325人、女29,310人)。死亡者数は49,087人。自然増加数は11,548人。

・婚姻件数31,526件、離婚件数9,119件。

▼アジア・インフラ投資銀行への参加(31日)

・レジャヴァ外務次官は、アジア・インフラ投資銀行(AIIB)は「グルジアにとって新たな可能性であり、グルジアは共同創設国として参加する」と発表。

▼国立銀行が経済成長予測を引き下げ(31日)

・国立銀行は2015年の経済成長予測を2%に引き下げ。主要なリスクとして地域情勢を挙げている。

▼2015年3月のインフレ率(4月3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率は1.2%。食料品・非アルコール飲料の価格が1.2%上昇。輸送費が1.3%上昇。

・年間インフレ率は2.6%。医療費が6.4%上昇。食料品・非アルコール飲料の価格が3.7%上昇(果物27.2%、紅茶・コーヒー6.8%、油脂4.8%、魚4.1%、肉類3.7%)。アルコール飲料・タバコの価格が9.9%上昇。医療費が6.0%上昇。輸送費が6.6%低下。